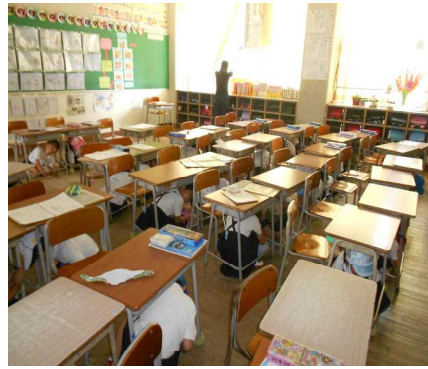


大津小便り

平成二十七年
七月一日(水)
NO五
文責 吉良智恵美

地震の避難訓練・町防災士さん結集



ばやく机の下に隠れた子どもたち。地震が収まったら急いで、運動場へ避難しました。今回は、運動場までの避難訓練でしたが、町の防災士の皆さんが十一名も来られ、学校の避難訓練に参加されました。最後に、避難の仕方などについて、指導してもらいました。



昨年は、土曜授業を利用し「総合防災訓練」を実施。今年は、避難訓練、保護者への引き渡しなど、パート毎の訓練を計画的に実施します。この日の避難の仕方は、ほめられました。

「校長先生、食べてください。」と、ほれん草のおひたしとゆで卵を持って来てくれた五年生。家庭科の実習です。時に勇気が必要ない試食ですが、おいしかったです。よい、ゆで加減でした。

子ども自転車大会・六月二十日・土

六月二十日(土)に、本田技研工業の体育館において、子ども自転車大会大津地区大会がありました。不動のチャンピオンである、阿蘇の河原小学校の胸を借りるつもりで、今年も果敢に挑戦しました。

交通安全協会の松本さんと川上さんの指導協力を受け、練習に励んだ挑戦者たち。実技と学科(交通法規)の両方をしなければなりません。よく頑張ってくれました。

残念ながら今年は、三位までの入賞は逃しましたが、「くやしいです。」と言う子どもたちに、確かな成長を感じました。

人生は、「挑戦」の連続で「成功」よりも「失敗」が多いのです。発明王エジソンは、「私は、失敗したことがない。ただ一万通りの「うまくいかない方法」を見つけただけだ。」と話しています。挑戦を恐れず、その経験が例え「失敗」であれ、次へのチャンスに変える、そんな前向きな心の持ち様が大切なのだと思います。



3年生の自転車教室で、模範運転を披露しました。上のようなジグザグ走行に、3年生は、大歓声でした。



生活数理「五年一組・白井学級」の巻

六月二十六日(金)に、生活数理の大研を行いました。挑戦者は五年一組。題材は、菊池少年自然の家で実施予定の「Qハンティング」。フィールドワークに似たゲームです。定められたポイントに行き、そこでクイズ(Q)に答えれば、ポイントがもらえます。行く場所やクイズの難易度で、ポイントも違います。子どもたちは、地図とポイント間の距離や傾斜度などを手掛かりに、自分たちが回るルートを考えます。一時間で効率的に回りますが、場所によっては、体力が求められます。班員全員が一緒に行き着くことが出来なければ、ポイントは無効。しかも学級対抗です。どの班がどのコースを行くかなどの作戦も必要になります。当日は、各自で考えたルートと所要時間について、予想時間の正確さを相互に検証しました。

ヒントの二区間の距離と時間を元に、コンパスなどを用いて自分たちのルートの予想時間を割り出しました。代表発表をした班は、自分たちのルートの一つがヒントの距離の三分の一ほどの距離であることを根拠に、四十秒を割り出しました。授業研究会では、「同じ所用時間で距離が違うデータを示し、その違いを考えることで、下り坂や窪地の環境に着目する必要性に気づかせるとよかったのでは」など、なるほどという意見をたくさんもらいました。

研究指定に係る運営指導委員



の先生方十名の皆さんの意見を、今回は全職員で聞くことで、多くの学びを得ることができました。「生活数理」の時間として扱う数字や追求の仕方など、教材研究に大事なものが見えてきました。